

「介護保険卒業して良かった」と 手放して喜べない理由



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネッツ
「デイサービスけやき通り」代表取締役

私の友人には、元要介護被保険者、かつ、今は適用申請をしていないという人が数人います。今回は、よく一緒に活動している男性2人にインタビューしながら、私を含めて介護保険卒業の話を書きます。

✿ アウトアマンのFさん

福岡県で45歳のときに脳内出血で倒れ、46歳で要介護被保険者となった方。私が経営する「デイサービスけやき通り」に通っていた方です。

そのときの心境は、

「もう…、早く… デイサービスをやめたい、と思いましたね。高齢の方向けですから…」

それでも活動性を取り戻し、48歳で、勤め先に週2回のリハビリ出勤をされました。

「自分が仕事で言いたいことが言えないのが、とてもつらかったです…。言葉がすぐに出ないのがつらかった。そりゃー、嫌でしたよ…」

リハビリ出勤がリハビリテーションになっていなかった事実は、私も同じでした。

それでも本格的に復職すると、介護保険は過去のものになってしまったそうです。そのときの心境は、

「そりゃー、少しはうれしかったですよ。何となく終わった感じですね。それより、とにかく、とにかく、仕事に行きたいということばかり考えていました」

多趣味の彼は、自宅で革細工工房を開き、病前から取り組んでいた九州徒歩一周を、今でも杖をつきながら（すごいでしょ！）継続しています。

「仕事に戻る」ということの意味は多面的に捉えられますが、この場合、「社会的な存在」と「家族の中での父親の存在」だったのかもしれない。私がそうだったように。

✿ 大男のHさん

大分県で、5年前の49歳のときに脳内出血で倒れたHさん。50歳で退院し介護保険の要介護被保険者となり、2カ所の通所施設に通ったそうです。通算で半年程度通ってやめたそうです。

「脳疾患患者は改善することがないんだという認識を持った施設長さんだったんです…。しかし、自分では良くなると思ってやめました」

そこには、OTやPTはいなかったのですか？

「いたんですけど、現場はリラクゼーション中心。“預かり型”のデイサービスだったということですね…」

では、ケアマネさんは？

「“それが現実ですね…”と言われました。“この現実を受け入れてください”ということですよね」

本人もつらかったでしょうが、ケアマネさんもつらかったでしょう。ケアをマネジメントする役目の方が、社会資源の乏しさに“現実”という言葉で今の状況を説

葉山 靖明 はやま やすあき
1965年福岡県生まれの50歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネッツ設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士

明するしかないのですから。

デイには、

「捨てゼリフじゃないけど、“俺は一人で良くなる!”って言うてやめました」

当然、介護保険も卒業。それで、その後は？

「病院などで知り合った仲間と患者会を立ち上げて、活動しています」

随分と気合の入った方で特別な事例のように見えるかもしれませんが、起こっている事象の原因部分は他の障がい者と同じだと感じます。どの片まひ患者も多かれ少なかれ、似たものがあるでしょう。

「良くなる」という言葉が、①体の機能が良くなるのか、②生活行為が良くなるのか、③人生が良くなるのか。そのころのご本人も、社会も、その施設長さんも、理解が難しかったと思います。私自身、長い間、その違いの理解に苦しみました。③については、いまだに考えることが多いのですが、可能だと私は思っています。年を重ねることによって人間は成熟し、豊かになれるから。



私の場合は…

私は自分でデイサービスを立ち上げて1年ほどたって、介護保険の申請をしなくなりました。仕事が忙しくなったのと、どうしても必要なROM（関節可動域訓練）は、通院でもできたからです。フェードアウトするかのように、病後3年、43歳くらいに介護保険を卒業しました。



三者三様？いいえ 共通していた社会的痛み

今は元気ですが、当時40代の3人の片まひ患者を襲った深い苦しみと痛み。それは中途障がいだから？障がい受容してないから？それでは障がいを受け入れるって何？

申し訳ありませんが、そういうことを言っているではありません。

問題は社会資源です。地域における福祉の現状によって起こる痛みや苦



大分県のHさん（左）と。大分駅前にて

しみのことなのです。社会的な痛みを感じ、訴えたいのに叫べない、または叫ぶと“症状”として捉えられてしまう。そんな「負のスパイラル」ともいべき状況…。

ケアマネさんの守備範囲のメインは高齢者福祉。障がい者福祉についての制度的問題点は、どこか棚上げされているような気がします。「パーソン・センタード（本人中心）」という言葉がむなししいスローガンで終わってしまうのでなく、それを具現化できる方法論をこそ、私は聞きたいと思います。

介護保険卒業は、介護保険から障がい者福祉の改善をも含有する、わが国の社会保障費の削減へつながる大きな問題提起でもあると思います。

今月の私

「4番、ピッチャー、葉山!？」

先日、福岡市にあるヤフオクドームの「バックヤードツアー」に、息子と行ってきました。

普段は選手がいるベンチやロッカールーム、グラウンド、ブルペンなどを約1時間かけて30人くらいで見学。参加費は一人千円でした。

私はスポーツが、まあ好きで、剣道やソフトボール経験（1番、ショート）はあります。息子のためにこのツアーに参加したのですが、ついつい興奮して、ノリノリで、拳句の果てには写真のヘルメット姿。



やはり、ベンチ裏などプロの空気が漂い、これからテレビで試合観戦しても、見る目が違ってくると思います。昨年よりも球場にも足を運びそうです。

こういう「活動」や「参加」も、なかなか良いですね！